

水辺活動

プログラム名	いかだ遊び			
概要	グループで協力していかだを作り、浜名湖に浮かべる。浜名湖の自然を感じる。			
ねらい	協力・工夫し作ることで、協調性や創造性を高めることができる。浜名湖の良さや水に親しむ体験ができる。			
条件	対象	小学4年生以上	人数(指導者人数)	~80人※1(6人以上)
	活動目安時間	150分程度	活動時期	6~10月
	活動場所	マリーナ広場、ハーバー	費用	不要
	下見	要	活動名簿提出	不要
持ち物・準備	(個人) 軍手、飲料、ゴーグル、タオル、着替え、濡れてもよい服(長袖、長ズボン、下着として水着可) 帽子(制作時)、水泳帽(入水時)、濡れてもよい靴、日焼け止め(必要に応じて) (貸出) ライフジャケット、いかだの材料			
安全上の留意点 (対策方法)	熱中症、脱水症状、体の冷え(適度な休憩や水分補給、帽子着用の徹底) 貝殻、漂流物でのケガ(靴や軍手の着用、浅場で腹ばいにならない、腰より低い水位で乗降をしない) スロープでの転倒(水際は苔で滑りやすいと注意喚起、ゆっくり1歩ずつ姿勢を低くして歩く) 板材、タイヤチューブでの切傷(軍手着用の徹底、板材ささくれ、チューブ空気口の注意喚起) 毒のある生き物やカニによるケガ(事前の注意喚起、危険な生物を見つけたら指導者に報告) 溺水(ライフジャケット着用の徹底)			

活動内容(手順)

事前①指導者配置の決定: 所定の《活動プログラム時の団体指導者の役割分担表》を作成、提出

②グループ編成: 艇数は最大5艇、8人1グループが好ましい。(ローテーションの場合は制作は一緒に行う)

グループ内でパティ(2人組)を決定(健康状態確認、点呼を常にパティでする)

③下見の実施: ハーバー内、危険箇所の把握

④実施方法の決定: 活動内容や時間、休憩時間の設定

⑤研修生への事前指導: 「概要」「ねらい」「安全上の留意点」等を指導、服装や持ち物確認、入水すること、スロープ内が滑りやすいことを周知

活動前①打合せ(活動10分前): 事務室前で所員と団体責任者・担当指導者と実施

実施判断: 気象を基に、協議の上決定(当日の天候・気温・水温・風速・風向など)

確認事項: 人数、グループ、グループ内のパティ、健康状態、配慮事項、服装、活動手順

活動①指導: 所員より

いかだの材料の説明→艇庫内の材料を取りに行く→それぞれの作業場所に持っていく

②活動開始: いかだ作り→準備運動→ライフジャケットの着用→いかだ乗り体験→着替えと材料の片付け(真水で洗って干す)

③確認事項: 人数、健康状態

④振り返り: 活動の感想を発表

⑤片付け: 備品の返却と確認、活動場所の原状復帰と清掃

<その他>

※1→交代制の場合(1ローテにつき40人、2ローテまで)

※スロープ、ハーバー内は必ずライフジャケットを着用すること。

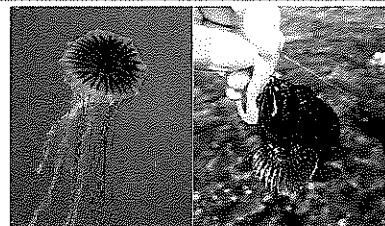
※制作時は熱中症対策のため、ライフジャケットは着用しない。

★毒のある生き物として、主に、赤クラゲ、オコゼ、アカエイが挙げられる。

◆赤クラゲに刺されたら…海水で患部を洗う→ゴム手袋をしてピンセットで触手を取る→熱いお湯(45℃以下)に30分以上浸ける→医療機関へ

◆オコゼに刺されたら…流水で患部を洗浄する→棘を抜く→毒を吸い出す→熱いお湯(45℃以下)に30分以上浸ける→医療機関へ

◆アカエイに刺されたら…海水で患部を洗う→毒針を抜く→熱いお湯(45℃以下)に30分以上浸ける→医療機関へ



赤クラゲ

オコゼ



アカエイ